

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4985918号
(P4985918)

(45) 発行日 平成24年7月25日 (2012. 7. 25)

(24) 登録日 平成24年5月11日 (2012. 5. 11)

(51) Int. Cl.

F 1

A 6 3 F 7/02 (2006. 01)

A 6 3 F 7/02 3 1 4

A 6 3 F 7/02 3 1 2 Z

請求項の数 1 (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2006-124872 (P2006-124872)
 (22) 出願日 平成18年4月28日 (2006. 4. 28)
 (65) 公開番号 特開2007-296020 (P2007-296020A)
 (43) 公開日 平成19年11月15日 (2007. 11. 15)
 審査請求日 平成20年11月3日 (2008. 11. 3)

(73) 特許権者 000121693
 奥村遊機株式会社
 愛知県名古屋市昭和区鶴舞2丁目2番18号
 (74) 代理人 100104776
 弁理士 佐野 弘
 (74) 代理人 100119194
 弁理士 石井 明夫
 (72) 発明者 今井 英順
 名古屋市昭和区鶴舞二丁目2番18号 奥
 村遊機株式会社内

審査官 篠崎 正

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 パチンコ機

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技盤と、該遊技盤に設けられたガイドレールと、該ガイドレールによって前記遊技盤に区画形成された遊技領域と、該遊技領域内に配設された始動入賞口と、該始動入賞口より上方に配設された表示装置と、該表示装置の表示画面の外周付近を取り囲むように、前記遊技領域内に配設されたセンター装飾部材とを備えており、前記始動入賞口より上方で、且つ、前記センター装飾部材と前記ガイドレールの間の遊技領域には、複数の障害部材が設置されることで転動領域が形成されていると共に、該転動領域を転動流下するパチンコ球が通過可能なワープルートが形成されており、該ワープルートの一部が表示画面と重なる位置に配設され、少なくとも前記ワープルートの表示画面と重なっている部分は透明の光透過性材質によって形成されており、

前記センター装飾部材には、前記ワープルートを通過したパチンコ球及び前記表示装置の下方の前記転動領域から跳ね上がったパチンコ球を前記始動入賞口に向けて転動流下させるレーンを有するステージが形成されており、

該ステージの横方向の一部には、前記レーンより遊技者側の位置で上方に向けて起立し、前記転動領域で跳ねた複数のパチンコ球の一部が前記ステージに載ることを防止して、前記転動領域からのパチンコ球の跳ね上がり量を調整可能な隔壁を有しており、

前記隔壁は、透明の光透過性材質によって形成されており、該隔壁の後方には前記ワープルートの透明の光透過性材質によって形成された部分が重なって配設されていると共に、さらにその後方に表示画面の前面一部が前記隔壁に対向するように重なって配設されて

10

20

いることを特徴とするパチンコ機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、パチンコ機に関し、特にパチンコ機が備えるセンター装飾部材の構造に関する。

【背景技術】

【0002】

従来のパチンコ機では、例えば、特許文献1に記載されているように、遊技領域の中央の位置に配置された表示画面を囲むようにしてセンター役物（「センター装飾部材」に対応するもの）が配置されており、また、センター役物の下部には、ワープ装置からのパチンコ球が転動する球受け棚（「ステージ」に対応するもの）が設けられている。さらに、センター役物の周囲の遊技領域には遊技釘（「障害部材」に対応するもの）が配置されるとともに、センター役物の下外側に始動入賞口（「入賞口」に対応するもの）が配置されている。

10

【0003】

また、センター役物の左上縁部には傾斜面が形成されており、その傾斜面に発射球が衝突すると、多くのパチンコ球は、センター役物の左横外側を転動流下して、センター役物の下外側に案内される。

【特許文献1】特開2005-13703号公報

20

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、近年、表示画面は大型サイズのもの配置されるようになってきているため、センター役物の左上縁部の外側に位置する遊技領域、ひいては、遊技領域内でパチンコ球が転動流下可能な転動領域が狭くなる傾向にあり、入賞率を考慮した遊技釘のレイアウトに対して非常に厳しい制約が生じていた。

【0005】

具体的に言えば、表示画面のサイズが、例えば15インチなど、大型になればなるほど、遊技釘のレイアウトの自由度は減っていくため、センター役物の略斜め上部から横外側を転動流下するパチンコ球を減速させることを目的として遊技釘の配置を設計する際や、センター役物の下外側に配置された始動入賞口に向かって案内させることを目的として遊技釘の道筋を設計する際に、入賞率の調整を行うことが非常に困難となる。

30

入賞率の調整においては、遊技釘のレイアウトだけでなく、センター役物の略斜め上部に形成された傾斜面の傾斜角度も大きく影響する。なぜなら、その傾斜角度を変化させれば、その傾斜面に衝突した発射球の勢いに変化が生じて、パチンコ球が遊技釘に衝突しながら始動入賞口に向かう確率も変化するからである。

また、センター役物の下外側に配置された始動口に案内するための遊技釘の道筋においては、そこからパチンコ球がステージに跳ね上がり過ぎると、入賞率に大きな影響を与える。

40

これらのことは、表示画面のサイズが大型になればなるほど、入賞率を考慮した遊技釘の配置等、レイアウトに対する制約を厳しくするものである。

従って、遊技釘の配置等、レイアウトに対する制約に対して、ゆとりある設計ができるようにするには、センター役物周辺の領域、即ち、遊技釘等を配置することでパチンコ球が始動口へ流下するまでの転動領域のスペースを十分に確保することが必要である。

この観点から、センター役物の一部を表示画面に重ねてしまうと、表示画面をせっかく大型化したにもかかわらず、表示画面の一部が隠れてしまうために、表示画面の大型化に伴う視覚効果などを十分に発揮させることができない。

【0006】

増して、このような制約に、更に、センター役物の片側に、装飾用の可動物等を設置し

50

たいといったニーズと、ワープルートを複数設けたいといったニーズが重なると、装飾用の可動物の動作範囲から外れた位置にワープルートを設けなければならないことも加わることもあって、センター役物の横幅がより広がって、その分、転動領域がより一層狭くなってしまう。また、転動領域が、より一層狭くならないように、ワープルートを表示画面に重ねてしまうと、表示画面がより一層、隠れてしまうため、表示画面の大型化に伴う効果が、より一層十分に発揮できない。

【 0 0 0 7 】

以上の点は、表示画面のサイズが、例えば 13 インチなど、従来と同じであったとしても、例えば、センター役物の外側のいずれか一方（左右いずれか一方）の転動領域に大型役物又は装飾可動物や多数の役物を配置させる場合には、表示画面とともにセンター役物を大型役物などの配置側とは反対方向に移動させて偏った配置をしなければならず、転動領域が狭くなれば、同様に懸念される。

10

【 0 0 0 8 】

そこで、本発明は、上述した点を鑑みてなされたものであり、センター装飾部材によって外周が取り囲まれた表示画面が大型化又は偏在されても、パチンコ球のステージへの跳ね上がりを調整し易くする、即ち、始動入賞口への入賞確率を調整し易くと共に、表示画面の視認に支障がない構造を有したパチンコ機を提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 9 】

この課題を解決するために成された請求項 1 に係る発明のパチンコ機では、ステージのレーンの位置より、上方に向けて起立する隔壁を設けているので、ガイドレールに案内されて転動領域内に侵入したパチンコ球がセンター装飾部材の周辺を流下し、センター装飾部材のステージと比べて流下方向に位置する障害部材を介して始動入賞口に向かって案内される際に、その障害部材からセンター装飾部材のステージのレーンにパチンコ球が跳ね上がる現象が起きる確率を隔壁をもって調整することができる。従って、転動領域内に設けられた障害部材に対する配置制約も緩和される。

20

【 0 0 1 0 】

また、隔壁は、透明の光透過性材質で形成されていることから、表示画面の一部を隠すように、前方に隔壁が起立していても、隔壁を介して表示画面を視認することが可能になる。

30

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 1 】

以下、本発明の実施の形態を、図面に基づき説明する。図 1 は、本実施の形態のパチンコ機の遊技盤 202 を示した正面図である。遊技盤 202 の盤面 202A には、略円形状の外レール 206A と内レール 206B（請求項 1 の「ガイドレール」に相当する）とが設けられており、外レール 206A 及び内レール 206B の内縁で囲まれた領域をもって、遊技領域 207 を形成している。

【 0 0 1 2 】

更に、盤面 202A の遊技領域中央付近には、後述するセンター装飾部材 205 の外周形状に類似する形状であって、センター装飾部材 205 の外周寸法より、若干、小さい寸法の孔（不図示）が設けられている。

40

そして、図示されないが、表示制御基板と一緒に透明なケースに収納されユニット化された液晶タイプの表示装置が、遊技板 202 の裏面の所定位置にネジなどで固定される。

このことによって、盤面 202A の遊技領域中央付近に形成された孔（不図示）の後方に、表示装置の表示画面 203 が位置するため、遊技者側となる正面から表示画面 203 を視認することが可能となる。

【 0 0 1 3 】

一方、遊技盤 202 の表面（正面）には、図 1 のごとく、センター装飾部材 205 の一部が盤面 202A の遊技領域中央付近に形成された孔（不図示）の一部を塞ぐように、且つ、センター装飾部材 205 が、液晶表示装置の表示画面 203 の外周付近を取り囲むよ

50

うに、遊技盤 202 の盤面 202 A に固定される。

遊技盤に対する具体的な固定方法としては、センター装飾部材 205 のフランジ 311 を遊技盤 202 の盤面 202 A に接触した状態で、フランジ 311 の螺子孔 311 A に螺子を挿入することで固定される。

【0014】

遊技盤 202 の盤面 202 A に形成された遊技領域 207 内においては、センター装飾部材 205 に加えて、複数の遊技釘 209、210、213 が配置されると共に、風車 211、第1始動口 214、開閉式のチューリップ状羽根 215 A を有した第2始動口 215、ゲート 216、大入賞口 217、アウト口 218、LEDなどを備えた電飾部材 231 Aなどが配設されている。

10

従って、遊技盤 202 の盤面 202 A に形成された遊技領域 207 内のうち、表示画面 203 を含めたセンター装飾部材 205 や第1始動口 214、第2始動口 215、大入賞口 217、アウト口 218、電飾部材 231 A を排除した領域で、パチンコ球が転動流下することが可能な転動領域 232 が形成されている。

【0015】

本実施の形態の遊技盤 202 は、図2に示ような、上皿 219 或いは下皿 220、ハンドル 221 などが設けられたパチンコ機 1 に取り付けられるものであって、周知の事項である。

【0016】

また、パチンコ機 1 においては、上皿 219 に集められたパチンコ球をハンドル 221 の操作により遊技者が発射すると、その発射球がレール 206 A、206 B に沿って上昇転動して遊技領域 207 に放出され、センター装飾部材 205 や、遊技釘 209、210、213、風車 211、ゲート 216、電飾部材 231 A などに衝突・案内されながら落下転動し、第1始動口 214 や、第2始動口 215、大入賞口 217 に入賞したり、アウト口 218 を通過する。なお、本実施の形態のパチンコ機 1 は、第1始動口 214 や第2始動口 215 にパチンコ球が入賞すると、主制御基板（図示せず）が大当たりか否かの抽選を行い、その抽選結果に基づく表示指定を表示制御基板（図示せず）に伝達し、表示制御基板（図示せず）が、表示画面 203 に大当たりか否かの抽選結果を示すように表示制御を行う周知のパチンコ機である。

20

【0017】

次に、センター装飾部材 205 について、図面に基づき説明する。

図1の正面図や図3の斜視図に示すように、センター装飾部材 205 には、表示画面 203 を露出させるための開口部 301 が設けられており、その開口部 301 の下側には、ステージ 305 が設けられている。

30

さらに、センター装飾部材 205 の開口部 301 の左側には、屈曲した中空筒状の2本のワープルート 302 A、302 B が列設されている。

【0018】

まず、ステージ 305 には、表示画面 203 の前面側に重なるように起立し、転動するパチンコ球から表示画面 203 を保護する保護板 312 と、保護板 312 より遊技者側の位置に起立するリブ 306、隔壁 310、313 が形成されている。保護板 312 とリブ 306 の間の底には、レーン 307 B が湾曲状に形成され、隔壁 310、313 とリブ 306 の間には、レーン 307 A が湾曲状に形成されている。レーン 307 A の中央付近は、後述のワープルート 302 A の出口 304 A から排出されたパチンコ球を、保護板 312 の中央部付近に設けられた落下入口 308 に向けて案内するように、レーン 307 B の高さ位置より上方に高く形成されている。そして、落下入口 308 に流下したパチンコ球は、内部の通路（不図示）を通過して、隔壁 313 の落下出口 309 から第1始動口 214 に向けて落下するように構成されている。また、レーン 307 A の中央付近から左右にずれた位置においては、パチンコ球がレーン 307 B からレーン 307 A に転がり落ちて、レーン 307 A から隔壁 313 を通過して転動領域 232 に流下するような傾斜が施されている。

40

50

【 0 0 1 9 】

そして、各レーン 3 0 7 A、3 0 7 B の左端側には、ワープルート 3 0 2 A、3 0 2 B の出口 3 0 4 A、3 0 4 B がそれぞれ配設されている。

【 0 0 2 0 】

隔壁 3 1 0 は、レーン 3 0 7 A、3 0 7 B よりも上方に突出するようにセンター装飾部材 2 0 5 に対して螺子などで固定されている。

隔壁 3 1 0 の上方への突出加減（高さ）や横方向の大きさは、発射されたパチンコ球が、隔壁 3 1 0 の下方の転動領域 2 3 2 で、風車 2 1 1 から第 1 始動口 2 1 4 に向けて植設された遊技釘 2 1 3 に当たり、跳ね返ることによって、ステージ 3 0 5 に載り過ぎないように、即ち、パチンコ球が、第 1 始動口 2 1 4 や第 2 始動口 2 1 5 に到達することなく、アウト口 2 1 8 へ流れ落ちる確率が考慮されたもの、あるいは、パチンコ球が、跳ね返って、ステージ 3 0 5 に載り、始動口 2 1 4 や第 2 始動口 2 1 5 に入賞する確率が考慮されたものである。

10

【 0 0 2 1 】

なお、隔壁 3 1 0、保護板 3 1 2 は、無色透明の光透過性材質であるポリカーボネート樹脂で成形加工されている。

このことによって、遊技者は、隔壁 3 1 0 又は保護板 3 1 2 を介して、表示画面 2 0 3 に映し出される映像を見ることが可能である。また、隔壁 3 1 0 の一部においては、後方に保護板 3 1 2 が位置するが、隔壁 3 1 0 と保護板 3 1 2 を介して、遊技者は、表示画面に映し出される映像を見ることが可能である。

20

【 0 0 2 2 】

また、隔壁 3 1 0 は、無色透明の光透過性材質で形成されている為、パチンコ球によって、隔壁 3 1 0 の表面に傷が付いても、常時、後方の表示画面 2 0 3 から遊技者側に光が発せられることによって、傷が目立ち難くなる。

【 0 0 2 3 】

なお、隔壁 3 1 0 は、センター装飾部材 2 0 5 の一部として一体的に成形加工されてもよく、また、隔壁 3 1 0 は、隔壁 3 1 3 と一体的に成形加工されていてもよい。

本実施の形態では、保護板 3 1 2 を表示画面 2 0 3 の前面側に重なるように起立させることで、転動するパチンコ球から表示画面 2 0 3 を保護することと、転動領域をできるだけ確保することができ、且つ、大型化された表示画面 2 0 3 を有効に活用するといった効果が得られる。

30

【 0 0 2 4 】

更に、この保護板 3 1 2 を以下の示すように構成してもよい。

図 1 1 に示す保護板 3 1 2 は、無色透明の光透過性材質であるポリカーボネート樹脂で成形加工されており、表示画面 2 0 3 との位置関係など図 3 の保護板 3 1 2 と同様である。

図 3 の保護板 3 1 2 と異なる点は、間隔を置いて 4 箇所、円柱を半分に切断したような形状の凸状部 3 1 2 A が保護板本体 3 1 2 B と一体に形成されていることである。

凸状部 3 1 2 A は、保護板本体 3 1 2 B より、上方に突出しており、且つ、遊技者側にも突出している。

40

【 0 0 2 5 】

なお、本実施の形態のパチンコ機 1 は、第 1 始動口 2 1 4 又は第 2 始動口 2 1 5 にパチンコ球が所定時間内に複数入賞すると、不図示の主制御基板が始動入賞を記憶すると共に、不図示の表示制御基板が記憶した始動入賞の数（最大 4 個）をキャラクタ等のデザインを使って表示画面 2 0 3 に表示する制御を行うものである。

即ち、これら始動入賞の数を示すデザインが表示される表示画面 2 0 3 の表示位置に対応するように、凸状部 3 1 2 A が 4 箇所設けられている。

凸状部 3 1 2 A は、レンズとなるため、表示画面 2 0 3 に映し出されるデザインを拡大するため、記憶された始動入賞の数を遊技者は確認し易くなるように、形成されている。

【 0 0 2 6 】

50

次に、センター装飾部材 205 の開口部 301 より左側に形成されたワープルート 302 A、302 B について説明する。

ワープルート 302 A、302 B は、パチンコ球の球径よりやや大きい内径の中空を有しており、センター装飾部材 205 の左側縁部にそれぞれの入口 303 A、303 B（図 1 参照）が形成され、それぞれの下端部に出口 304 A、304 B が形成されている。また、ワープルート 302 A、302 B は、無色透明の光透過性材質であるポリカーボネート樹脂で成型加工されており、さらに、少なくとも上下に立設された部分が表示画面 203 の正面側（図 1 の図面手前側）で連ねて設けられており、図 1 に示すように正面から見ると、その上下に立設された部分の一部同士は重なり合った状態にある。

【0027】

10

図 4 は、図 1 の線 A - A 箇所、ワープルート 302 A、302 B 及び表示画面 203 を切断した部分断面図である。

【0028】

本実施の形態においては、図 4 に示すように、遊技者側から表示画面 203 を見ると、ワープルート 302 A の幅（直径）E1 とワープルート 302 B の幅（直径）E2 の間に、一部が重なる箇所 E3 を設けることで、ワープルート 302 A の幅 E1 とワープルート 302 B の幅 E2 を加算した幅（E1+E2）より狭くなる為、遊技者がワープルート 302 A、302 B を介することなく、表示画面 203 を直接、視ることができる表示領域が増加することになる。

【0029】

20

また、表示画面 203 の映像を直視するよりは、若干見づらくはなるが、ワープルート 302 A、302 B を無色透明の光透過性材質であるポリカーボネート樹脂で構成することで、ワープルート 302 A、302 B を介して、表示画面 203 の映像が視認できる。

【0030】

なお、ワープルートを 302 A、302 B を介して表示画面 203 を見る場合、ワープルートを形成するポリカーボネート樹脂がレンズとなって光を屈折させる為、箇所 E3 の領域は、表示画面 203 の映像が最も見づらくなるが、色彩などは確認できる領域であるので、視認可能と言える。

【0031】

このように、ワープルート 302 A、302 B を、一部が重なるように配置したことによって、図 5 に示すように、各ワープルート 302 A、302 B を通過中のパチンコ球 P1、P2 が重なったとしても、ワープルート 302 B を通過中のパチンコ球 P2 の一部を確認することができる。

30

よって、各ワープルート 302 A、302 B にパチンコ球が、いかなるタイミングで通過しても、通過中のパチンコ球を見失うことはない。

【0032】

更に、図 1 の A - A 箇所においては、各ワープルート 302 A、302 B の全幅（E1+E2-E3）が、表示画面 203 に重なるように、表示画面 203 の前面側に配置されている為、大型サイズの表示画面 203 を配置するにも関わらず、センター装飾部材 205 の幅が広がることなく、風車 211 付近の転動領域を確保し易くなる。

40

【0033】

また、本実施の形態においては、ワープルート 302 A、302 B の出口 304 A、304 B の前方に、隔壁 310 が設置されているが、隔壁 310 も、ワープルート 302 A、302 B と同様に無色透明の光透過性材質であるポリカーボネート樹脂で成型加工されている為、遊技者は、隔壁 310 を介して、ワープルート 302 A、302 B の出口 304 A、304 B から排出されるパチンコ球を確認できると共に、更にその後方の表示画面 203 に映し出される映像を、隔壁 310 及び、ワープルート 302 A、302 B を介して見ることが可能になる。

【0034】

本実施の形態においては、表示画面 203 が大型化又は偏在されても、隔壁 310 や保

50

護板 3 1 2 やワープルート 3 0 5 などが透明の光透過性材質である為、これら透明材質を介して遊技者が表示画面 2 0 3 を視認できるので、視覚効果などを十分に発揮させることができる。さらに、表示画面 2 0 3 が大型化するに連れて、追従するように、転動領域 2 3 2 を狭くしなくても良いので、第 1 始動口 2 1 4 又は第 2 始動口 2 1 5 に対する球の入賞率の調整を考慮したレイアウト設計への制約が比較的緩やかにすることができる。

なお、ワープルート 3 0 2 A、3 0 2 B の断面は、パチンコ球が通過できるものであれば、楕円形や多角形などの何れの形状であってもよい。例えば、図 6 に示すように各ワープルート 3 0 2 A、3 0 2 B の断面を楕円形としてもよく、また、図 8 に示すように各ワープルート 3 0 2 A、3 0 2 B の断面を四角形としてもよい。

【 0 0 3 5 】

10

図 6 及び図 8 のように各ワープルート 3 0 2 A、3 0 2 B を並べることで、各ワープルート 3 0 2 A、3 0 2 B が重なり合わない状態で配列する図 7 及び図 9 に比べて、前述したように、表示画面 2 0 3 を直接、視ることができる表示領域が増加する。

【 0 0 3 6 】

なお、上記の実施形態に限定されることなく、その趣旨を逸脱しない範囲で様々な変更が可能である。

例えば、ワープルートは 3 本以上であってもよく、有色透明材質で構成してもよい。

【 0 0 3 7 】

また、センター装飾部材に対するワープルートの設置や形状についても様々な変更が可能であり、センター装飾部材の形状についても、様々な変更が可能である。

20

図 1 に示す実施の形態では、ワープルート 3 0 2 A、3 0 2 B を透明の光透過性材質で形成したことによって、ワープルート 3 0 2 A、3 0 2 B を介して、後方の表示画面 2 0 3 が視認可能となったが、ワープルート 3 0 2 A、3 0 2 B の上方付近に位置する表示画面 2 0 3 の左上隅付近は、遊技盤面 2 0 2 A の裏面に位置するため、遊技者側から、視認できない。

【 0 0 3 8 】

このため、別の実施の形態として、以下のようなセンター装飾部材を用いれば、表示画面をより一層視認することができる。

図 1 0 は、別の実施の形態として構成された遊技盤の正面図である。

なお、図 1 0 中の構成を説明するに際して、図 1 に示す実施の形態と共通する構成については、同じ符号を用いて、便宜上、説明詳細を省略する。

30

【 0 0 3 9 】

図 1 0 においては、センター装飾部材 2 0 5 の一部として、基底片面 4 0 1 A が新たな構成として形成されている。基底片面 4 0 1 A は、遊技盤 2 0 2 の中央に開設された孔（不図示）の輪郭に類似する形状で、若干、孔より大き目に形成されている。このことで、基底片面 4 0 1 A の周縁端部分のみが、盤面 2 0 2 A の表面側に接した状態で、遊技盤 2 0 2 A にねじなどで固定されている。

基底片面 4 0 1 A には、遊技者側へ垂直に立ち上がるように突出片面 4 0 2 が一体形成されている。

突出片面 4 0 2 の下流側には、突出片面 4 0 2 と同様に、基底片面 4 0 1 A に対し遊技者側へ垂直に立ち上がるように傾斜片面 4 0 3 が一体形成されている。

40

【 0 0 4 0 】

なお、傾斜片面 4 0 3 は、概ね、表示画面 2 0 3 の左側の上方から下方に至るまでの長さであり、ワープルート 3 0 2 C を構成するものである。

即ち、ワープルート 3 0 2 C は、上方に形成された入口 3 0 3 C からパチンコ球を内部に受け入れ、下方に形成された出口 3 0 3 D からパチンコ球を排出できるように、中空の筒体からなり、途中の地点 P 付近で、一旦、表示画面側に屈曲し、再度、下方に延びように形成されている。

【 0 0 4 1 】

そして、地点 P よりやや下方には、ワープルート 3 0 2 A がワープルート 3 0 2 C の前

50

方に形成されている。

これらワープルート 302A、302C は、何れも無色透明の光透過性材質で構成されている。

この為、遊技者側から、ワープルート 302A、302C を介して、表示画面 203 を視認することができる。

【0042】

そして、本実施の形態においては、基底片面 401A も一部が無色透明の光透過性材質で構成されている。

具体的には、基底片面 401A は、二点鎖線で示す表示画面 203 の左上角を境界に、表示画面 203 と重なる領域が、無色透明の光透過性材質であるポリカーボネート樹脂で成形され、その他が有色で、且つ、不透明である樹脂を使って、一体的二色成形されている。

10

よって、基底片面 401A の内、有色樹脂で成形された部分が、遊技盤 202 の中央に開設された孔（不図示）を塞いでおり、有色、且つ、不透明である為、遊技盤 202 の裏面側が遊技者は視認できない。

一方、基底片面 401A の内、無色透明の光透過性材質からなる部分によって、表示画面 203 が大きくなっても、遊技者が視認可能となる。

【0043】

なお、本実施の形態の基底片面 401A は、盤面 202A の転動領域の働きもなす。例えば、ピン形状もしくは障害壁などを基底片面 401A から、遊技者側に突出するように、基底片面 401A と一体に成形することが、より好ましい。

20

【0044】

本実施の形態は、表示画面 203 の左上角付近に位置する基底片面 401A を、透明の光透過性材質であるポリカーボネートと、有色樹脂で二色一体成形し、透明の光透過性材質の樹脂を介して表示画面のみを遊技者が視認可能とする構成であるが、表示画面 203 の左下角付近や右上角付近、或いは、右上角付近を同様に構成すればより一層、遊技盤 202 の中央に開設された孔（不図示）を隠した状態で、表示画面 203 の視認領域を増やすことが可能になる。

【0045】

即ち、表示画面 203 が大型化又は偏在されても、センター装飾部材 205 の基底片面 401A やワープルート 305 などが透明の光透過性材質である為、これら透明材質を介して遊技者が表示画面 203 を視認できるので、視覚効果などを十分に発揮させることができる。さらに、表示画面 203 が大型化するに連れて、追従するように、転動領域 232 を狭くしなくても良いので、第 1 始動口 214 又は第 2 始動口 215 に対する球の入賞率の調整を考慮したレイアウト設計への制約が比較的緩やかにすることができる。

30

【0046】

以上のことから、本発明は、センター装飾部材によって外周が取り囲まれた表示画面が大型化又は偏在されても、パチンコ球のステージへの跳ね上がりを調整し易くする、即ち、始動入賞口への入賞確率を調整し易くすると共に、表示画面の視認に支障がない構造を有したパチンコ機を提供することが可能になる。

40

【図面の簡単な説明】

【0047】

【図 1】本発明の一実施形態を示したパチンコ機の遊技盤の正面図。

【図 2】同パチンコ機を示した正面図。

【図 3】同パチンコ機のセンター装飾部材を示した斜視図。

【図 4】図 1 の線 A - A で表示画面と 2 本のワープルートを切断した断面図。

【図 5】各ワープルートを通過するパチンコ球が重なった状態を示した図。

【図 6】図 1 の線 A - A で表示画面と 2 本のワープルートを切断した断面図。

【図 7】図 1 の線 A - A で表示画面と 2 本のワープルートを切断した断面図。

【図 8】図 1 の線 A - A で表示画面と 2 本のワープルートを切断した断面図。

50

【図 9】図 1 の線 A - A で表示画面と 2 本のワーブルートを切断した断面図。

【図 10】別の実施の形態として構成された遊技盤の正面図。

【図 11】別の形態の保護板を示した図。

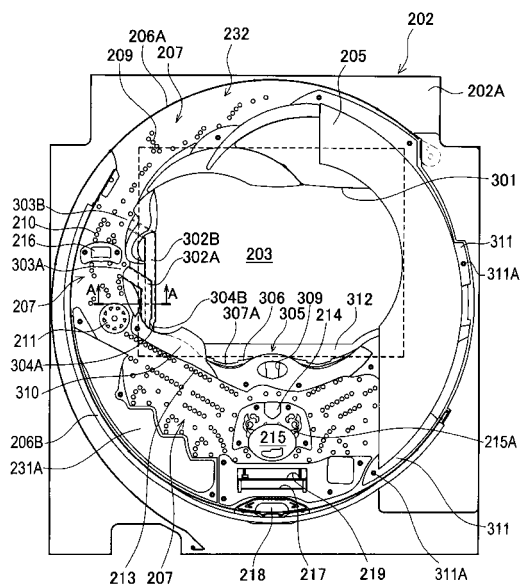
【符号の説明】

【0048】

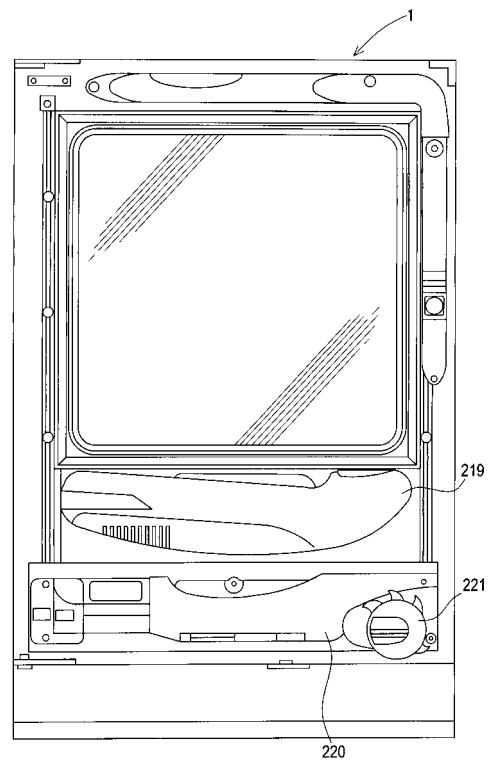
1 ... パチンコ機、202 ... 遊技盤、202A ... 遊技盤の盤面、203 ... 表示画面、205 ... センター装飾部材、206A ... 外側レール、206B ... 内側レール、207 ... 遊技領域、213 ... 遊技釘、214 ... 第1始動口、215 ... 第2始動口、232 ... 転動領域、302A, 302B ... ワーブルート、305 ... ステージ、307A, 307B ... ステージのレール、310 ... 隔壁

10

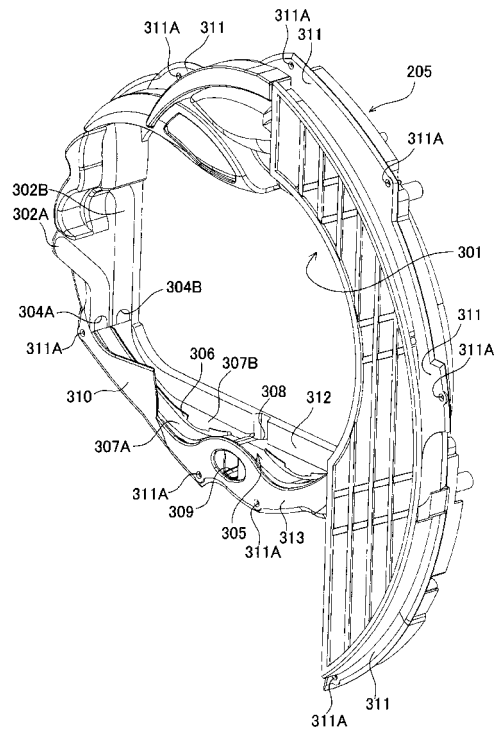
【図 1】



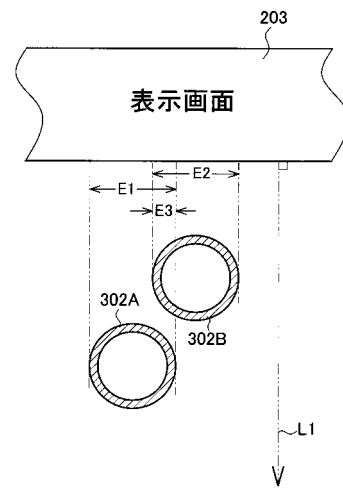
【図 2】



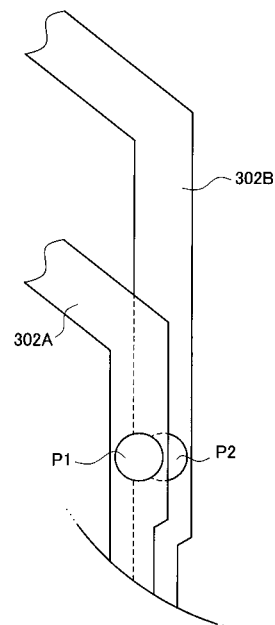
【図 3】



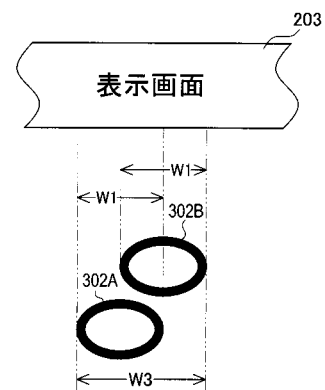
【図 4】



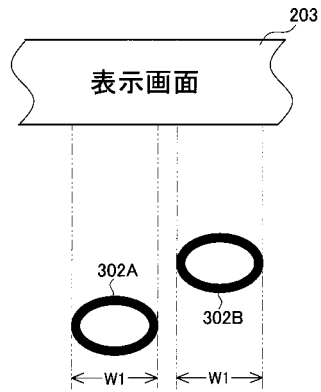
【図 5】



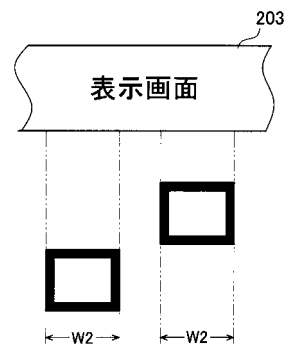
【図 6】



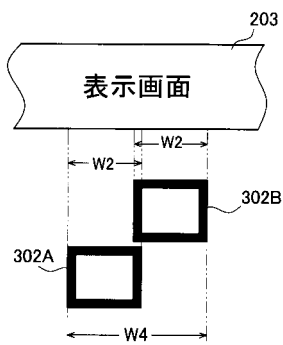
【図 7】



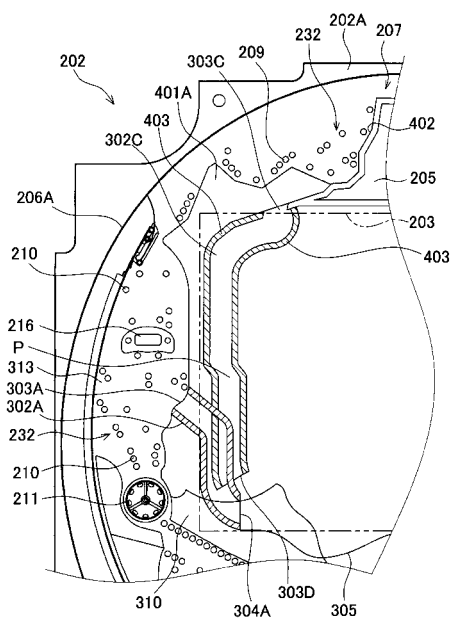
【図 9】



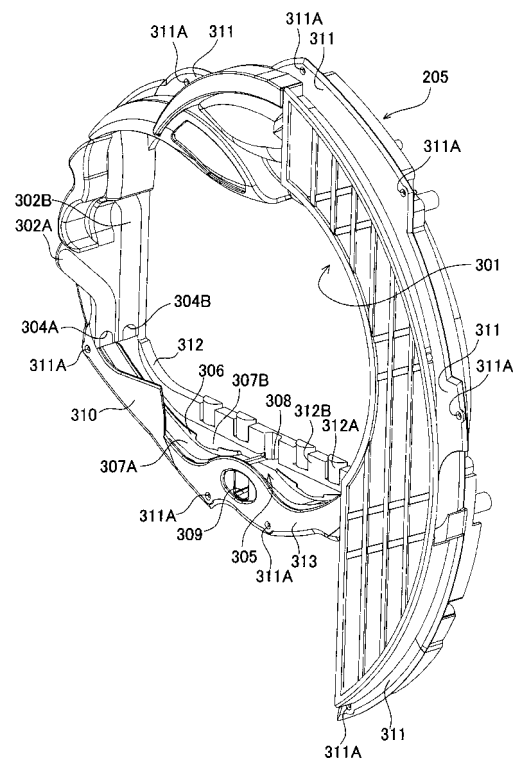
【図 8】



【図 10】



【図 11】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開2006-006532(JP,A)
特開2004-195087(JP,A)
特開2003-180991(JP,A)
特開2004-194717(JP,A)
特開2006-034308(JP,A)
特開2003-284841(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A63F 7/02